

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (36)
 (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

新しい年 (2022 年) の寅年となった。Great Xmas, and Happy New Year 2022, the Year of the 'TIGER', or an animal of the cat family !であるが、今年もさらに本会での研究目標を内輪ばかりでなく対外的にも示す重要なポイントを見定め総括していく。

連日、刻々と Trump 氏の tweets を追っていると White House 詰めの報道記者、また世界中のメディア機関のジャーナリストたちのように英語で仕事をしている錯覚すら一瞬もつが、彼らは Trump 氏の tweets を読み、理解し、文に誤りあれば正し、また考え、次々と記事を書いている。Trump 氏と野党側との噛み合わない政治論争の semantics (意味論) は興味深い、本会の研究上での基盤にある Basic 哲学(orthology)とも関わる。

本連載(33)の試問で IT 時代の今日的な corpus linguistics (コーパス言語学) とも関わる段落テキスト資料の誤文訂正を扱ったが、次の(1)、(2)のうち(2)も文中に誤りのある例で今回も下で試問としてみる。(1)、(2)はともに不法移民の処遇に関する tweets である。

- (1) Due to the fact that Democrats are unwilling to change our very dangerous immigration laws, we are indeed, as reported, giving strong considerations to placing Illegal Immigrants in Sanctuary Cities only. The Radical Left always seems to have an Open Borders, Open Arms policy — so this should make them very happy ! (April 10, 2019)
- (2) Just out : The U.S.A. has the absolute legal right to have apprehended illegal immigrants transferred to Sanctuary Cities. We hereby demand that they be taken care at the highest level, especially by the State of California, which is well known or its poor management & high taxes ! (April 13, 2019)

試問 段落文誤文訂正：上の(2)の tweet には誤りが2箇所ある。それはどこか。

今回はまずは2箇所の誤りを正した形で、(1)と(2)をまとめて前回提示した回転英文母型 Matrix Screen (MSOE)モデル [Basic での別名 Automatic Sorting Machine for Output English (表層英文自動仕分け装置：ASMOE [ézmou])] 上に乗せてみる。

Matrix Screen of Output English (MSOE [émsou])

STATEMENT						
		THEME: NP		RHEME: VP		
	STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
(1)	1	φ	φ	φ	φ	Due to the fact
	2	that	Democrats	are unwilling	φ	φ
	3	to	φ	change	our very dangerous immigration laws, /	φ
	4	φ	we	are indeed,	φ	φ

	5	as	φ	reported,	φ	φ
	6	φ	φ	giving	strong considerations	φ
	7	to	φ	placing	Illegal Immigrants	in Sanctuary Cities only. //
	1	φ	The Radical Left	always seems	φ	φ
	2	to	φ	have	an Open Borders, Open Arms policy — /	φ
	3	so	this	should make	them very happy ! //	φ
(2)	1	φ	φ	φ	φ	Just /
	2	φ	φ	φ	out : //	φ
	1	φ	The U.S.A. /	has	the absolute legal right	φ
	2	to	φ	have	apprehended illegal immigrants	φ
	3	φ	φ	φ	transferred	to Sanctuary Cities. //
	1	φ	We	hereby demand /	φ	φ
	2	that	they	be taken care of	φ	at the highest level,
	3	φ	φ	φ	φ	especially by the State of California,
	4	which	φ [= it]	is well known	φ	for its poor management & high taxes ! //

(備考) 単一斜線 (/) は各文での意味的2分割線。

▲これは受信英語資料の電光掲示板式decode化である (cf. 発信英語のencode化)。前回、英文が分かる・理解できるということはこの種の「分け方が分かること」だと言った。そもそも意味理解はパターン(pattern)認識である。このパターンを見抜く訓練

(training)、いわゆる pattern practice は外国語修得上で重要となる。音読も黙読も pattern 認知で、その practice である。これをくり返すとすべての文が徐々に言語的慣習／慣用法(linguistic usage)として見えてくるはずである。言語を社会的慣習(social custom)と見るいわゆる構造主義言語学(structural linguistics)的な見方である。人間という種(species)は日本で生まれ育てば(特別な脳障害があるのでない限り)自然と日本語を、アメリカで生まれ育てば自然と英語(米語)を話すようになる。生物学的にひな鳥などが成長し必ずそれぞれの種の鳴き声を発するようになるのと同じである。

この言語の社会的慣習性は決定的なものはずである。本連載前々回(34)で言ったが人間(ヒト)は鳥のオウムではない。オウムは人間言語の抑揚としての intonation から感情を部分的に察知し真似ることがあっても、sound と meaning の一体化ができず理解のための社会的規範・基準・尺度(criteria)をもたない。社会的な構造主義(structuralism)を否定すると言語の音素(phoneme)の概念をも否定することとなり、F. Saussure 風には音韻論(phonology)や音声学(phonetics)に関しても何も語れないことになる〔このあたりはこれまでも、また本会 *Year Book No.73* (2021)などでも触れた〕。

段落文の誤文訂正で文中の誤りが見抜ける能力も構造主義言語学的な emics (特性素論)としての本連載(33)の末尾でも一言触れた「談話文特性素論」とも関わるが〔これを筆者は taxotagmemics (< taxemics + tagmemics)と呼んでいるが〕、ここでの誤りは初歩的なもの。試問の正解は上の(2)での 2 つ目の文中での care と at の間に of を挿入、また known の後ろの or は前に f を入れ for とする(実は or は原文のままで、Trump 氏のスペリングミス)。なお、or は other の短縮形で同系。両者は中世の時代に英語となり英語史上は other の初出が 100 年以上早かった。ついでながら or は元来、対立関係(opposition)をいう語であるが、中和(neutralized)され厳密な対立でない Rain or shine, I will go. (雨でも天気でもどちらにせよ、私は行く)などの例もある。

(1)は民主党が危険な immigration laws (移民法)を変えたがらないので、報道のように不法移民を Sanctuary Cities 「聖域都市」に限定して移送することを検討中だ、国境解放を主張する極左翼の民主党にとっては嬉しいことだろうという内容。

(2)は「速報」として、米国は拘束した不法入国者を聖域都市に移送する絶対的な法的権利を有するのであり、民主党の地盤で移民に寛容な特にカリフォルニア州にしかるべく彼らの面倒をみてもらうことを要求する、カリフォルニア州は緩和な管理体制と高税でよく知られているという内容である。聖域都市は全米に 300 以上あると言われるが、「移民は人質ではなく人間だ」として、この tweet は大きな波紋を呼んだ。

(1)の太線語 dangerous (< Basic 語 **danger**) の原義・由来を押さえておきたい。印欧祖語の語根 PIE etymon の音素形/DEM/からとされ、元来は「家、土地、領土」の意味であった。これが時とともに抽象的な「権利、支配」の意味にも拡張し、さらに「危険であること」の意味になった。人間社会の歴史をみれば分かるが重要な注目点である。プラス α Basic 語 kingdom は同系。un-Basic 語 freedom, dominate, domestic, domain, dome, madam, etc. も同系〔プラス α Basic 語 king の観点から拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(49)参照〕。

(2)の太線語 absolute (絶対的な) は PIE etymon は /LEU/ (/SOL/) で原義は「解きほぐすこと」である。abs-は「反対」の意味。本連載(11)で提示した同系語 Panopticon(PPE)からは Basic 語 loose が同系。また loss も同系。プラス α Basic 語 solution, resolution、un-Basic 語 resolve, release, relax など同系〔同上拙著、第二部、例(84)参照〕。

なお、immigrant (移民者)などの語根部 migr は 'change' の意味で、常に形を変え

る am(o)eba (アメーバ) などとも同系語であることは本連載(32)の(2)で言った。音と意味の一体化でそれを感知したい〔さらには同上拙著、第三部、pp.209-210 参照〕。

ここで1つ音声〔筆者は理論的な音韻論は別に、生粋の日本人が英語音声の調音法(phonetic articulation)に関しあれこれ説くことは嫌うので、受動的に聴いてどのように聞こえ響くかという「聞こえ方」の観点から扱っておきたいことがある〔本質的には音声学(phonetics)は物理学、音韻論(phonology)は言語学〕。ワルツの3拍子というが、英音が3拍子的であることは認めつつも、一方でこれを音節(syllable)のレベルとは別に語(word)のレベルで簡素に2拍子のいわゆる弱強系の iambic rhythm (アイアンバSRリズム)として感じ取りたいのである。これは一種の心的リズム・旋律(mental prosody)ということになる。上文(1)を語レベルで弱音系と強音系の2分割で次に示してみる。

語の弱音・強音で感知する英音の心的2拍子リズム(mental prosody)

(弱音系)	(強音系)
φ	Due
to the	fact
that	Democrats
are	unwilling
to	change
our	very dangerous immigration laws,
we are	indeed,
as	reported,
φ	giving strong considerations
to	placing Illegal Immigrants
in	Sanctuary Cities only. //
The	Radical Left always seems
to	have
an	Open Borders, Arms Policy —
so	this
should	make
them	very happy ! //

この文が発話されたものとして聴く場合、1音節語の多い弱音系の語(句)が日本人の民族聴覚では処理しにくい。意味の核をなす強音系のほうだけを聴いても意味はほぼ理解できる。書かれた文としても(3±α)語の強音系の語句を縦に流し読むだけでもほぼ意味は取れる。これを読み次にやはり(3±α)語の弱音系の語句を次々とあてがっていきくと、ここでの文の意味が明確にくみ取れてくるはずである。この2拍の英文リズムは「語のレベルで感知する英音の心的リズム(mental prosody)」ということになる。

このあたりは本連載(31)、前々回(34)で触れた書かれた英文の可読性(readability)とともに発話された英文の可聴性(audibility)の問題にもつながる。Basicの場合是一般の英語とは異なる音韻体系となる。実は何年も前にすでに注目したことである〔詳細は拙稿(2009)「Basic English と音声：聴覚神経レベルからのアプローチ」研究紀要 No. 16, pp. 8-21 (日本ベーシック・イングリッシュ協会)、また拙稿(同)「入門期の英語と Basic English」News Bulletin No. 61, pp. 28-38 (GDM 英語教授法研究会) 参照〕。